

体験学習から食育を学ぼう

稚内市

1 取組の目的

人間形成に一番大切な0歳～6歳の保育所生活の中、食にまつわる多くの経験を体験することで食べることの大切さ、思いやり、自信、がんばり、感動など心の成長にもつなげることを目的とする。

2 取組の内容

(1) 「5月・6月」各保育所の畑やプランターを活用して野菜の種・苗の植え付けの実施。保育士が各児童の年齢に応じた作業を分担、指導しながら進める。



(2) 収穫体験7月～8月、実ものがどんどん育ってきた。二枚葉から四枚葉、つぼみから花が咲き実が付き大きく成長、その間子どもたちはツルを縛ったり、水をやったりとクラスで協力した。

(3) 収穫した野菜を給食室に届けメニューに組み入れてもらい、皆で味見した。その他、収穫した野菜を絵に残し、教室に張り出した。



(4) 収穫した野菜、子どもたちも作り手にまわった。だいこん、にんじんをぬか漬けにし、家に持ち帰り、家族で味わう約束をした。保護者参観に合わせ収穫したじゃがいもで芋団子作りを親子で体験し、当日の給食試食会で味わった。(9月～10月)



(5) 市の農政課の協力により市内保育所・幼稚園児を対象に農作物収穫体験(ぱくぱくランド)をさせていただいた。(9月)

(6) 市立白樺保育所、市立港保育所の年長児対象に調理実習及び食育カルタ取り実施(12月)

(7) 年長児を対象に給食の検食を連想いただくとよいかと思うが、「お味見当番」と題しエプロン等の身支度をして厨房の入り口付近にセットされた当日の給食を一口ずつ味見し、調理員から材料や献立説明を受け自分の舌で感じた感想を教室に戻り給食時間に友達の前で発表してもらった。

(12月～3月)

(8) 卒園や修了式を迎える頃保育所内でお別れ会を実施。その会を盛り上げるべくバイキング給食が子どもたちの楽しみの1つとなっている。調理員への感謝も伝えられる。(3月)

3 成果と課題

保育所での食育は食べることを通じ、思いやりや感謝の心、マナーなど多くのことを学ぶ。春の植ええ、苗付けなど作物の成長に関わり自分たちのできることを進めることで、嫌いだったピーマンが食べられるようになった。ナスの花は紫色で咲くんだ、かぼちゃはツルで伸びるんだ、きゅうりは新鮮な時には体にトゲトゲがあるんだ・・・など多くの発見も喜びに変わる。

実が大きくなり、収穫しそれを厨房に届けその日の給食に盛り込んでもらい自分たちが味わうこんなことで食材の持ち味や人の温かみも感じ取れる。

保育所での体験を家庭に持ち帰り家族で話題にし、さらに収穫の味わいを家族でも感じてもらうなど、保育所側の思いは大変熱いものがある。

「お味見当番」は年長児だけができる大事なお仕事。責任を持ってクラスの代表として味見をし、その感想を教室の皆の前で発表しなければならない。この行為は小学校入学に備え大きな自信の1つにつなげるものと思っている。

子どもたちが保育所で過ごすこの大切な時期を保育所のもう一つの役割である親支援と重ね合わせながら進めなければならないと感じている。